

# 太陽光で やるぞ! 地エネ



兵庫県丹波市春日町国領・山王自治会

文〓編集部

写真〓鈴木千佳



おひさまの力でむらに貯金  
**自治会発電がはじまった**



風の抜け道

太陽光パネルを裏から見ると発電した電気を集めて送るコードがたくさん。強風時の風の通り道をつくるため、上下のパネルの間にすき間を開けて設置。使用しているパネルは縦80cm×横160cmの単結晶195W（イワテックアイサニーシリーズ）



出力195Wの太陽光パネル24枚（4.6kW）に対してパワコン1台を接続（合計9台が稼働）。熱をもつので建屋のなかにはエアコンが設置されている（もちろん、このエアコンは発電した電気動く）

小さな山々に囲まれた盆地に真夏の太陽がサンサンと降り注ぐ。ここは、全国初の自治会運営「山王自治会太陽光発電所」。河川敷跡地に並べられた太陽光パネルは全部で216枚。出力42kWで年間発電量は4万4000kWh。4月1日、固定価格買取制度が始まる直前のスタートで、「1kWh40円で10年間」の契約で売電中の日々だ。「梅雨の時期は日照量が少のうなるんで発電量は落ちるが、4月、5月は調子よかったでえ。売電も月18万円ペースやったし、この分だと年間180万円ほどは見込めそうや」そう笑顔で話すのは、自治会発電を提案した農家の細田泰宏さん（61歳）。山王自治会では、売電のおかげでこれまで年間1軒7万円ほど徴収していた自治会費を来年からはゼロにする予定だ。

### 子や孫の世代まで自治会費の心配なし

丹波市春日町、国領地区の一角に山王自治会はある。12世帯、42人の小さなコミュニティは、年金暮らしの世帯が大半。年間7万円の自治会費とはちょっと高く感じるが、たしかに15年ほど前は今の半分の金額だった。当時も公民館改修の積立やテレビの共同アンテナの修繕など、自治会の共有財産にかかる出費はいろいろあった。それでも銀行の金利が3〜4%とよかったので、3



竹田川（一級河川）に架かる山王橋を渡ると「山王自治会発電所」の看板が目飛び込んでくる。太陽光パネルの後ろに広がるのが山王集落

000万円ほどあった自治会の基本財産の利子を自治会費の補てんにまわすことができたのだ。

ちなみに資産の7割は、1983年、台風10号の水害で竹田川を改修した際、自治会の共有地を売却した際にできた資金である。

今回、細田さんはこの資金を太陽光発電所の建設に充てて、自治会で運営しようと考えたのだ。

「現役世代だけやない。将来、子や孫たちが自治会費を気にせんでも安心して暮らせるような仕組みをつくらなあかん。そのためにも売電できる太陽光発電所をむらの

共同資産として残したかったんや」

自身も昨年から自宅に出力5・5kWの太陽光パネルを付けて売電しており、これからは地エネの時代だと確信していたのだ。

### 合意の決め手は建設コストと損害保険

ところが太陽光発電所の建設は、はじめからすんなりといったわけではなかった。月2回の会合を開いては、誰もが納得するまで侃々諤々（かんかんごんごん）の議論がくり返された。「なに言い出すんや。むらのカネ